

金融機関の破綻事例に関する調査報告書概要

(三井情報開発株式会社)

1. 調査手法等

我が国において破綻した金融機関について、文献調査及びデータベース調査を通じて、定性面、定量面の両面から、破綻のパターン等を分析。

2. 破綻のパターン

上記分析から考察された主要な破綻のパターンは、以下のとおり。

<定性的側面>

- 不動産関連業種への融資偏重
- ハイリスクなビジネスモデルの採用
- 収益モデル転換の失敗
- 信用リスク・流動性リスク管理の失敗
- 経営陣による放漫経営
- コーポレートガバナンスの欠如

<定量的側面>

(財務データを通じた銀行の破綻の兆候)

平成9・10年度に破綻した銀行については、破綻の4年前までには現れている一方、11年度に破綻した銀行については、はっきりと現れていない。

(経営実績と銀行の破綻との関係)

「規模に裏付けられた収益力」、「貸出業務の健全性」、「有価証券投資業務の健全性」の順で銀行の破綻への影響度が強い。

3. 破綻リスク低減のあり方

- 自社の直面するリスクファクターに応じた適切なリスクマネジメントの確立
- 収益性とリスクを勘案したサービス水準の決定及びそのサービスに見合ったリスク管理体制の構築
- 内部統制の強化による経営管理の充実
- ディスクロージャーの充実による経営の透明性の向上

(以上)